

実務経験のある教員等による授業科目一覧

医療専門課程 理学療法科(2021年度)

配当 年次	授業科目名	実務経験のある教員授業で身に着く力	授業 時数	単位 数	授業方法			教員 (実務経験)
					講義	演習	実習	
1	基礎運動学	人の基本的動作の構成、歩行、運動を継続するためのエネルギーの仕組みについて。主に動作での関節運動の記載方法から支持基底面や重心の関係、力学的な分析を行う。	60	2		○		菊地 潤:一般病院理学療法士15年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
1	基礎理化学	前半は理学療法を学ぶ上で必要な理科系知識を振り返る。後半は理学療法士に特に必要となる力学について物理学的な基礎知識から学ぶ。	60	2		○		小池 武則:一般病院での理学療法士として13年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
1	情報統計論	先人たちの記述した論文を検索し、論文や、検査結果の判定に用いられる基準値、基準範囲について学び、対象者の問題に側した情報を集め、知識を整理し、解決のための能力を培う	30	2	○			臂 貴紀:訪問リハビリ理学療法士3年及び一般病院理学療法士5年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
1	人体構造・機能学Ⅱ	運動器系を構成する骨・関節・靭帯・骨格筋について、それらの一般的な機能と、個別の機能を学ぶ。	30	2	○			菊地 潤:一般病院理学療法士15年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
1	人体構造・機能学Ⅲ	神経系の構造から、正常な神経の機能や役割について理解する。脳の各機能の役割や局在性を理解し、運動と神経生理学のつながりを理解する。	30	2	○			臂 貴紀:訪問リハビリ理学療法士3年及び一般病院理学療法士5年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
1	人体構造・機能学Ⅳ	循環器、呼吸器に関する構造と機能を学び、理学療法実践者としての基礎的な知識を身につける	30	2	○			山野井 裕子:総合病院 理学療法士 12年及び訪問リハビリ理学療法士 6年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
1	人体構造機能演習	人体構造機能学で学んだ骨・靭帯・筋・神経・動脈について、模型のデッサンや触診技術を通じて、周囲の組織との位置関係をより深く学んでいく。	60	2		○		小池 武則:一般病院での理学療法士として5年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
1	生活環境論	障害者や高齢者が、回復・維持された身体機能を有効に活用するためには、社会的環境に広く目を向けることは重要である。	30	2	○			小川 紀子:介護老人保健施設理学療法士8年及び一般病院理学療法士5年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
1	理学療法評価学	理学療法の一連の流れにおける評価の位置づけを説明し、評価の意義・目的について理解する。	60	2		○		菊地 潤:一般病院理学療法士15年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
1	臨床実習Ⅰ	医療人・社会人としての意識を高め、自己が目指す理学療法士という職業を再確認する。今後の学習の必要性を認識し、学習意欲を高める動機づけにする。	45	1			○	臂 貴紀:訪問リハビリ理学療法士3年及び一般病院理学療法士5年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
2	整形障害理学療法	整形障害領域の理学療法評価の意味と、理学療法プログラムの選択について、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする。	60	2		○		小池 武則:一般病院での理学療法士として13年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
2	内部障害理学療法	循環器、呼吸器、代謝系疾患による機能障害に対する理学療法を学ぶため、基礎的な解剖、生理、内科学の知識を確認しながら理学療法を実践できるように学んでいく。	60	2		○		山野井 裕子:総合病院 理学療法士 12年及び訪問リハビリ理学療法士 6年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。

配当年次	授業科目名	実務経験のある教員授業で身に着く力	授業時数	単位数	授業方法			教員 (実務経験)
					講義	演習	実習	
2	日常生活活動学	障害者・高齢者が生活をする地域社会、在宅生活の環境の中でQOLに密接に関わるものであり、リハビリテーションにおける重要な概念である。その概念とQOLについて理解を深める。	60	4	○			小川 紀子:介護老人保健施設理学療法士8年及び一般病院理学療法士5年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
2	理学療法評価学演習	評価方法の種類、主な検査測定項目、評価結果の記録・解釈について説明する。また、各種の評価結果を統合・解釈する方法を学び、疾患の症状について理解を深める。	120	4		○		高澤 洋二:一般病院での理学療法士として6年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
2	臨床運動学	起居動作や歩行のシーケンスとバイオメカニクスを学び、動作・歩行分析が行えるようにする。起居動作や歩行動作の各シーケンス、フェイズにおける筋活動を動作をしながら説明出来るようにする。	30	2	○			臂 貴紀:訪問リハビリ理学療法士3年及び一般病院理学療法士5年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
2	臨床実習Ⅱ	実習施設の機能や特徴を把握し、理学療法士の業務と役割、他職種との連携、患者との関わり方について学ぶ。	270	6			○	小池 武則:一般病院での理学療法士として5年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
2	臨床実習Ⅲ	実習指導者のもとで検査・測定の技術を実践し、患者のもつ諸問題のうち理学療法の適応となる問題を把握するため、評価結果から問題点を抽出できるようにする評価実習とする。	270	6			○	小池 武則:一般病院での理学療法士として5年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
3	理学療法管理学	組織の能力を最大限に発揮させるための具体的な職場管理・理学療法教育について系統的に学び、職業倫理を高める態度を養う	30	2	○			小川 紀子:介護老人保健施設理学療法士8年及び一般病院理学療法士5年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
3	理学療法技術論Ⅰ	理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する	180	6		○		山野井 裕子:総合病院 理学療法士 12年及び訪問リハビリ理学療法士 6年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
3	理学療法技術論Ⅲ	理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する	180	6		○		小池 武則:一般病院での理学療法士として5年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
3	臨床実習Ⅳ	地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを、保健医療福祉における通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションに関する実習とする。	45	1			○	高澤 洋二:一般病院での理学療法士として6年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
3	臨床実習Ⅴ	総合臨床実習とし、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定について実習を行う	270	6			○	小川 紀子:介護老人保健施設理学療法士8年及び一般病院理学療法士5年の実務経験を持つ教員が「生きた知識」等を学べる授業をおこない、実践的な教育をおこなう。
実務経験のある教員等による授業科目の授業時数合計			2010					